

「なんでもっ！」

また長男が4歳たった3月の半ば頃、幼稚園までの通園路を歩く練習をしました。

「危ないから川には近づいたらだめよ」

「なんで？」

安全な道を教えても、子どもにその理由が理解できない。ならば、納得しません。柵もない川なので危ない、と近づいてみると理解した様子ですが、初めて歩くその道は興味をひかれることだらけです。

道端に落ちている小さなドンケリや春の花、鳥の声など気づいたことを喜々として教えてくれます。目的地の幼稚園はまだ先ですが、今度は側溝にオタマジャクシを見つけた。

「オタマジャクシは大きくなったらカエルになるよ」

彼もそのことは知っているはずと思って話しかけると、

「なんで？」と驚いた返事。

カエルは知っていても、目の前の黒く小さな丸い生き物、オタマジャクシが大きくなったらカエルになるということが理解できないのです。

私なりにいろいろ答えを伝えても、彼の聞きたかった答えではなかったようで、幼稚園までの道中はずっと「なんで？」の繰り返しです。

そんな時は、声だけ優しく「なんでもっ」と、自分に都合のいい有無を言わない返答をついてしまします。これから通う通園路を「ふーん」と黙ってしまった彼と歩

きながら、彼が成長していく中で「僕はなんで生まれてきたの？」と問われたら、どう答えるかと思いを巡らせました。

そもそも私自身も、生まれてきた意味も目的地も持ち合わせて生を受けた。「思い通りにいかないのが人生。みんなつらいんだよ。なんでもっ」などと、他人事にはできません。

幼稚園に通う長男とは、その後も、そんなやり取りが何度かありつつ、やがて、卒園

の目を迎えました。

卒園式では、「おおきくなったよ」という歌を園児たちが歌ってくれます。園での生活で心と体が成長できたことや、別れを前に、出合いのすべてへ感謝の思いが込められた歌です。

歌の中では、子どもの名をみんなが呼び、出合えてありがたう、と伝えてくれます。苦楽をともに歩んできた保護者にとっても、胸がいっぱいになります。

また、歌詞の中で「こんなにおおきくなったよ きょううまれてきてよかったところからおもえるから」という言葉が心にのこりました。

仏さまの名のり

私たちはさまざまな縁の中で生かされながら、しあわせを願い、ひと時のよろこびを大切に重ねつつも、人生の本当の意味を見つけられずに、苦悩し、別れに嘆き、迷いの道を独り歩んでいます。

しかし、生まれてきてよかったと心から思える出会いを

みんなの法話



森 智崇

(もり・ともたか)

布教使

大分県玖珠町・光徳寺住職

恵まれたならば、今までの人生に確かな意味が生まれ、これから歩ませていたなく目的地をはっきりと知らされることとなります。

親鸞聖人は、お釈迦さまがこの世に生まれてこられた理由は、ただ阿弥陀さまの救い（本願）を説くためであった、とお示しくなされました。また、阿弥陀さまのご本願に出あわせていただいた慶びを、如来の作願をたづねれば、苦悩の有情をすずして、回向を首としたまひて大悲心をば成就せり

(註釈版聖典(願))とお示しくなされました。

私たちの迷いと苦しみのもとを除きたいと願われた阿弥陀さまは、あらゆる功德をそなえた大いなるお慈悲の名のり声・南無阿弥陀仏となつてよび続けてくださいます。

「南無阿弥陀仏、大丈夫、生まれてきてくれてありがとう」

「南無阿弥陀仏、大丈夫、いつでもどこでもあなたとともにいます」

「南無阿弥陀仏、大丈夫、むなしいのちには決してさせませぬ」

「南無阿弥陀仏、大丈夫、あなたを必ずお浄土に生まれさせます」

生きる意味を問わずにはおれない私たちに、あなたの生きる意味はどこにあるとつねによびかけ、よび覚まし、今の私そのままを受け入れ、独りではないと告げてくださっているのです。

「なんで？」が続く人生、苦悩するたびに「なんでもっ」と無理やりに納得させるのではなく、苦悩するままが阿弥陀さまに願われ抱かれたのちであつたと、一声一声に聞かせていただくのです。



カット 林 義明